

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

音楽DVDデビュー (巻頭エッセイ)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 関, 雄二 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00008357

音楽 DVD デビュー

関 雄二 (国立民族学博物館教授・アンデス文明研究会顧問)



ペルー北海岸の大都市チクラヨから山に向かって車で8時間。ようやくたどり着く北高地の小さな村パコパンパを拠点に、私はここ4年ほど同名の遺跡の発掘調査を続けています。こんな奥まった場所にも、ついにインターネットが通じました。昨年まで、村に2台しかない電話機に、調査団員が順番待ちしていたのが嘘のようです。しかもワイヤレスです。海拔2500メートルの山中ですから、ケーブルを敷設するよりも、衛星回線を使用した方がずっと効率的なのでしょう。もっとも、貧困層が大半を占める村でPCなどを持つ家があるはずもなく、村人、とくに若者たちは、電話局に設けられたデスクトップ型の端末で熱心にチャットをし、音楽をダウンロードするだけです。

こうした情報機器や、AV機器の普及はここ数年、猛烈な勢いでアンデスにも押し寄せています。DVDもそのひとつです。その原因は、安価なDVD再生専用機の普及と、違法コピーの氾濫にあります。街角では、ロードショー前の映画作品のDVDやVCDのコピーが1ドル前後で並べられ、とにかくオリジナル版を売っている店がないのです。

昨夏の調査でも、おもしろい経験をしました。海岸の町から、パコパンパに向かう途中の小さな村で昼食をとろうとレストランに入ると、これまでほとんど言葉を交わしたことがない女主人が、微笑みを浮かべながら近づいてきました。「あなただ、あなただ」と指を指しながら、DVD再生機で音楽DVDをかけ始めたのです。画面に映ったのは、遺跡で音楽を聴きながら、手拍子をしている私であり、

失笑しました。

そういえば、一昨年、地元の村出身の女性民謡歌手デュオがデビューするというので、調査している遺跡を舞台に撮影したいという申し出があったのを思い出しました。邪魔にならぬ程度という条件で、撮影を許した音楽DVDが発売になり、例のコピーが大量に出回っていたのです。歌手の脇では、彼女らの妹がミニスカートで踊り、興味深げな視線を放つ私たちが作業服のまま手拍子をとるという光景は、あまりほめられたものではありません。歌手や踊り手のはるか後方で、平板測量をしている場面もあり、なんとも奇妙な取り合わせです。しかし、パコパンパ遺跡は、巨大な神殿であり、村のお宝の一つですから、映像としては申し分なく、村の宣伝になること間違いなしの舞台でした。もっとも、巨石を上げた階段や、儀礼空間である半地下式広場で、撮られた映像をみたら文化庁はなんとというやら。

でもなぜDVDなのでしょう。ペルーのような途上国の、とくに地方ではひどい貧困に出会います。貧しい家庭にとって、貧困からの脱出を示す基準が耐久消費財の所有であることは、よく指摘されます。かつては、これがテレビやラジオであったのですが、最近では、DVD再生機がこのリストに加わってきました。私たちに食事を出してくれる村の女性宅でも、蓄えたお金で最初買ったのがDVD再生機でした。私たちとしては、ビールを冷やしてくれる冷蔵庫を先にそろえて欲しかったのですが、それはそれ、音楽なしには生きていけない人々の究極の選択なのでしょう。